毎年，表参道で行われる石川初研究室の研究展示会で，調布のフィールドワークの成果が発表されました。（2022 年 3 月）

※展示会は終了しています。

令和４年度は，みなさんに発見していただいた「駅まわりの魅力」について整理した内容（ちょうふ景観だより第５３号～５６号参照）を踏まえ，市内９駅の景観まちづくりの方向性の検討を予定しています。

市民検討会の開催についてはあらためてご連絡いたします。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

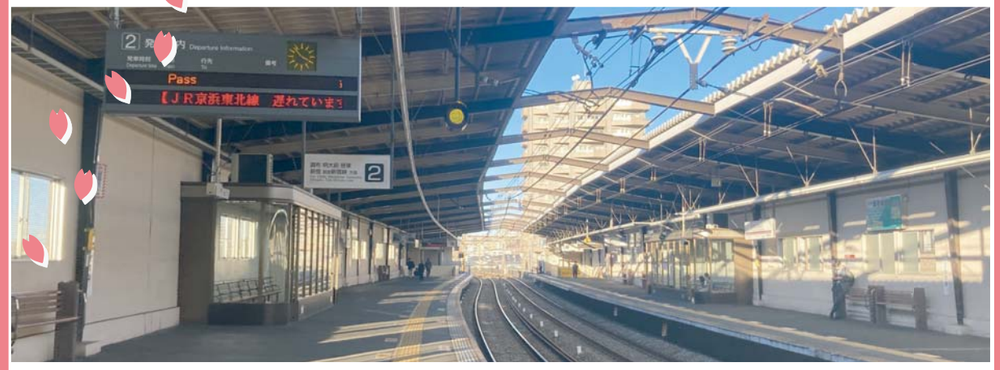
調布市では，景観まちづくりについて，景観だよりでお知らせしていきます。

発行：調布市都市整備部　都市計画課　開発景観係

Tel：042-481-7442　Fax：042-481-6800　Email：tikubetu@w2.city.chofu.tokyo.jp

ちょうふ景観だより

Landscape for Railway Station



調布プロジェクト「駅の周辺の景観」

調布景観プロジェクトとは

2015 年より、調布市景観まちづくり市民検討会の支援をしています。これまで「深大寺の景観」「国分寺崖線の景観」などに取り組んできました。2020 年からは調布市内の駅周辺の景観がテーマとなり、リサーチと市民ワークショップ支援を行っています。2020 年度は「駅を広告するポスター」と駅名から連想した「駅キャラクター」の作成や、駅の特徴や愛すべき点を挙げた「推し駅カード」などの制作を行いました。

「駅まわりの魅力」の分析

本年度のテーマである『「駅まわりの魅力」とは？』を考えるため、調布市内にある京王線の９駅の駅前と周辺を歩き回って調査を行いました。まずは駅周辺を歩いて景観の印象を記録し、その後にその地区の歴史や地形、街の構造などを調べて景観の文脈を探る、「Scene ／ Geography」という記録方法を考案し、駅の担当を決めて駅ごとの固有のキャラクターを探しました。

駅の周辺の景観のキャラクター

リサーチを経て、駅周辺の景観の特徴は、１．駅の有様と駅舎のキャラクター（地下、高架、駅舎のデザインなどの違い）、２．駅周辺の街の構造（街道沿い、崖線などの地形、開発が進んでいるかなど）、３．交通（急行駅か、乗り換えの車の扱いなど）、４．駅前の空間（広場の扱いとデザイン）などの要因が組み合わさっていることがわかりました。

「調布市内の駅まわりの魅力」

「学生が見た駅まわりの景観とは」

令和４年３月３１日発行
第５７号

令和３年度　調布市景観まちづくり市民検討会　番外編

検討テーマ『調布市内の駅まわりの景観について」

本号では，調布市景観アドバイザーの石川氏，慶應義塾大学学生による，調布市内の９駅の駅まわりの景観に関するフィールドワークの結果について紹介します。

※フィールドワークの結果は４頁～１１頁に掲載しています。

石川　初 氏
慶應義塾大学大学院
政策・メディア研究科教授
調布市景観審議会委員
調布市景観アドバイザー

研究室の紹介と，活動の概要

慶應義塾大学石川初研究室は，教員の石川初の大学への着任とともに，2015 年に開設された研究室です。
現在，学部 2 年生から大学院博士課程の学生まで，約 30 名が在籍しています。教員の石川初の専門はランドスケープデザイン（緑地や景観の計画・デザイン）ですが、研究室では決まった専門領域にとどまらず，個人の庭づくりから中山間地の農村景観まで，さまざまな研究活動を行っています。
石川初は 2016 年度から調布市景観アドバイザーとして，学生メンバーは研究活動の一環として，調布市景観まちづくり市民検討会をお手伝いしています。

大学の研究室は湘南藤沢キャンパス（神奈川県藤沢市遠藤）にあります。調布からは少し遠いですが，多くの学生は「大学キャンパスに行くよりも調布に来たほうが近い」場所に住んでいます。教員は深大寺在住です。

石川初研究室が駅周辺の景観を探索する！

フィールドワーク（まちあるき）とは

石川初研究室では，地域の景観を考えるためには，まずその地域の景観の特徴を発見し，それを絵や言葉にすることが大切だと考えています。
たとえば，「調布らしい景観とはなにか？」「調布の景観を良くするためにはどうすればいいのか？」ということを考えるためには，調布の景観の特徴，その良さや面白さを知る必要があります。

研究室で行うフィールドワークの方法を紹介します。

念入りに準備する

対象地の地図，地形図，植生図などの資料を使って，地形や生物などの自然、歴史や文化を調べます。行く前に地域を知っておくことは大切です。そして，どれほど念入りに調べて行っても，現地を歩くと新鮮な発見があります。

可能な限り記録する

カメラやビデオ，GPS 受信機などを使って，現地で見たものを様々な方法で記録します。その場で自分が気に入ったもの，美しいと思ったものだけを写真に残してしまうと，その地域がもっている可能性を見逃してしまいます。

先入観を外して発見する

地域の景観に対する思い込みや先入観をなるべく排し，その地域の面白さ，美しさを再発見することを試みます。先入観を排することは簡単ではありませんが，たとえば外国からの観光客の目で，「看板やサインの文字がまったく読めないつもり」や，「宇宙人になったつもり」で街を眺めるなどのコツがあります。

発見した景観に新しい名前をつける

当たり前だと思っていたものも，見方を変えることで新しい景観として浮かんでくることがあります。発見した景観に名前や題名をつけてみることも，街の景観を再発見する方法の一つです。

フィールドワークの態度

また，私たちが大切にしていることに，場所や景観の悪口を言わず，良いところを引き出すように見るという心がけがあります。もちろん地域の景観には改善すべき点が見つかることも多くあります。しかし，もともとその地域がもっている良い点を再発見し伸ばすことのほうが，無理なく長続きする景観を育てることにつながるのです。

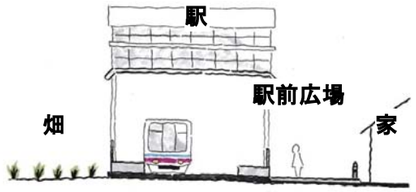
飛田給駅

景　**飛田給：着地していないように見える駅**　背景

駅舎から北に 40m ほど離れた辺りから，駅に比べると古いと思われる住宅や町工場が，　2m ほどの間隔で並んでいる。

飛田給駅の南側（スタジアムの反対側）には畑が広がっていた。
また，北側（スタジアム側）も，駅前広場やスタジアム通りを外れると，閑静な住宅街であった。
駅の意匠や大きさから抱いた賑やかで人が集まりそうな印象と，静かに暮らす住民の生活空間にギャップを感じた。

駅及び駅前広場と町の境界



高い建物がなく，
農地が駅より低い位置にある。

畑と民家や町工場が広がる静かな街に，スケールの大きな駅と駅前広場が乗っかってきた。
上から乗っかってきたので，　駅の敷地ギリギリまで畑や建物が広がっている。

西調布駅

景　**西調布：高架下の公園**　背景

雨の降る日，駅前広場には以外に人通りが少なく寂しい感じがしたが，近くの高速道路の高架下の公園は子どもたちで賑わっていた。 高速道路が「屋根のある遊び場」を提供しているようだった。

駅及び駅前広場と遊び場

人通りの少ない駅前広場

舗装され，点字タイルがバス停まで伸びている。
広場の中心には，植栽の中に「新撰組局長 近藤勇生誕の地 上石原」と書かれた看板が立っている。

子どもや親が
高架下でキャッチボールをしたり，
遊具を使ったり，
走り回ったり，
ベンチでおしゃべりをしている。

飛田給駅

景　**飛田給：ヘタ地の街**　背景

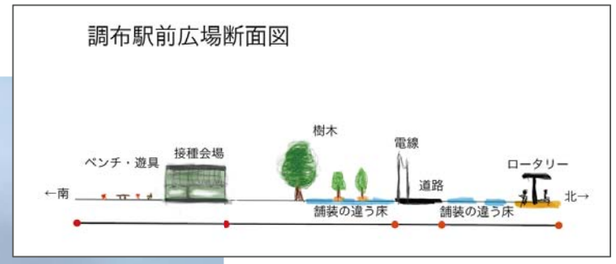
スタジアムの建設に伴って，古い住宅地に新しい道路が通された飛田給駅周辺には，切り取られたような三角形の土地「ヘタ地」がいくつも見られた。 ヘタ地の建物には，敷地に合わせて形が工夫された建物があって，独特の景観を作っていた。

新しい道路の開発に伴ってできたヘタ地

図版出典：Kashmir3Dスーパー地形

調布駅

景　**調布：仮設の施設を受け入れる広場**　背景



仮設のワクチン接種会場が置かれていた。
まだ広場として形が整っていない調布駅前，形がないことで仮設の施設を受け入れることができていた。

調布駅

景

調布駅：交差する人々がつくる景観

駅前のベンチに座っていると，自転車で移動する人，犬を連れて散歩する人，ベビーカーを押す人，駅まで早歩きの人，さまざまな速度の人々が様々な方向へ向かって通り過ぎる。 行き交う人々が調布駅前の景観を作っている。

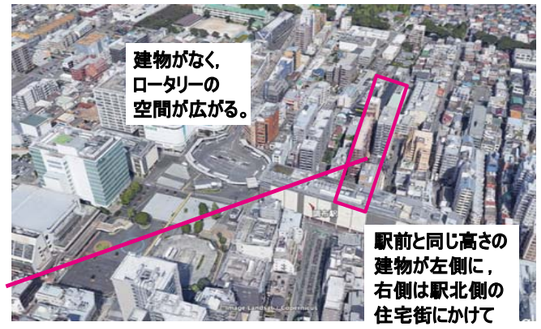
調布駅

景

調布：異なる高さが生み出す正面と裏道

背景

調布の駅前は空が広い。 駅から出るとまずその広がる明るい空が印象的だ。駅から離れて歩き出すと，急に空間が狭く，生活感のある裏道になる。 調布は駅前と裏町の差が大きな場所だ。



図版出典：Google Map

調布駅～布田駅間

景

調布駅周辺：踏切の跡地

調布駅と布田駅の間は，「線路の気配」がそこかしこに残っている。
ここは， 踏切だったようだ。

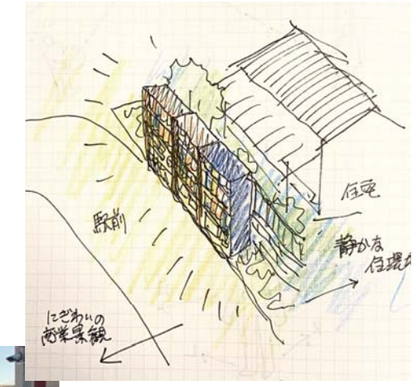
布田駅

景

布田：自動販売機がつくる賑わい景観

背景

布田駅前には商店街のような賑わい空間が見られないが，駅前広場に面した住宅や近くの駐車場に自動販売機が並べられていた。
自動販売機は「小さな商店街」のように見えた。



布田駅

景

布田：線路の空白の記憶がつくる景観

布田駅の周囲では，線路が消えても，地上に線路があったころの街の様子が線路跡の景観を作り出している。

柴崎駅

景

柴崎：街とともにある駅

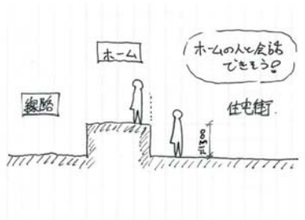
柴崎駅は周囲の街とのスケールが同一で，駅と街の境目が感じられない。

背景

都市化した農地

左：1927-1939 右：現在　　柴崎駅は 1927 年に現在地に移設

旧版地図を見ると，かつて桑畑だった駅周辺が農地の形を残したまま宅地化したことがわかる。農地のなかにあった柴崎駅は宅地に飲み込まれたようだ。



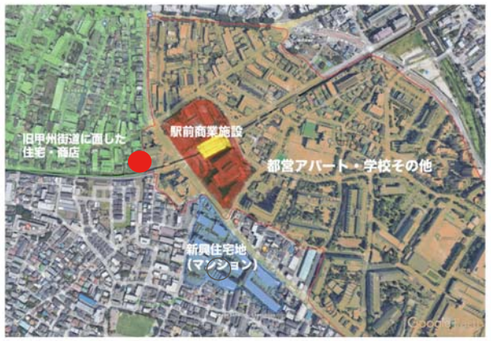
図版出典：今昔マップ、地理院地図

国領駅

景

布田駅から国領方面に向かって線路跡を歩くと，急に高層マンションや商業施設が見えて風景が一変する。国領は線路跡の道の終点で，そこから新しい街が始まっている。

背景



図版出典：Kashmir3Dスーパー地形

つつじヶ丘駅

景

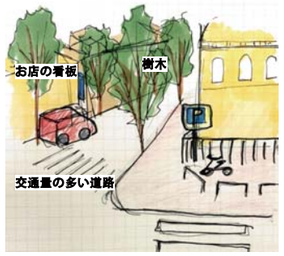
つつじヶ丘：たまプラーザに似ている通り

背景

つつじヶ丘駅で感じたのは，通りの雰囲気がたまプラーザにそっくりだと感じた。なんとなく似ているというより，以下の写真（下段）の通りを歩いたとき，たまプラーザのこの通り（上段）に似ていると感じたのだ。

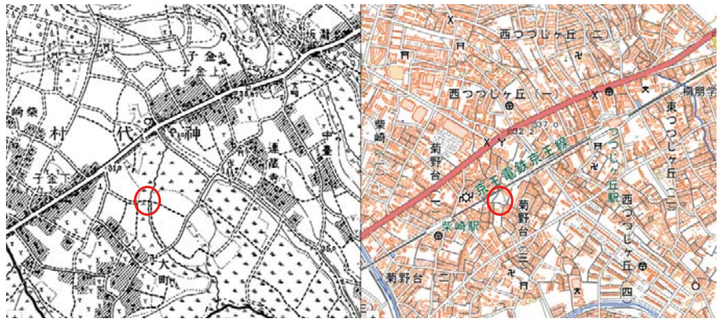
つつじヶ丘

たまプラーザ



つつじヶ丘駅

景　**つつじヶ丘：小径のあるガーデン**　背景



明治 39 年　　現代

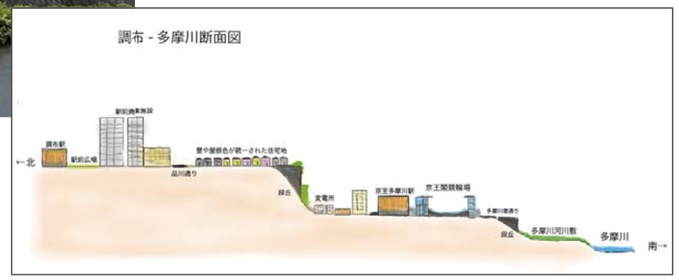
つつじヶ丘と柴崎の中間あたりに，線路沿いに草花の咲く小径のガーデンがあった。 旧版地図を見るとこの周辺はもと水田で，ガーデンの小径は小さな川か用水路の蓋のようだった。 よく手入れされたガーデンは線路沿いに不思議な美しさを与えていた。

図版出典：今昔マップ、地理院地図

京王多摩川駅

景　**京王多摩川：段丘が生み出す景観**　背景

京王多摩川の周辺には，急な坂道がある。 これらは多摩川の河岸段丘の地形が作る景観である。 段丘が作る傾斜地は緑地として利用され，街に緑をもたらしている。



仙川駅

景　**仙川駅：三本の道路が生み出す異なる景観**　背景

仙川駅周辺には，鉄道と直行する 3 本の道があり，それぞれが異なる景観をもっている。
この 3 つの道路によって歩行者と車道の使い分けがされているようだ。

図版出典：地理院地図

フィールドワークを終えて

今回は駅周辺を歩いて気になった景観を集め，その背景を探るフィールドワークを行いました。調布には他にも色々な切り口で見ると興味深い景観があります。今後も探索を続けたいと思います。

フィールドワークの様子（2021）

調布の駅周辺の景観フィールドワーク参加メンバー

青柳 成穂／市川 美奈／伊藤 侑世／生越 結乙／大国 絢美／大野 ゆり／菊池 有紗／菊池 那奈子／小室 友希乃
佐々木 怜也／佐藤 歩貴／蒋 一鴻／鈴木 俊介／高瀬 立樹／武谷 梨紗子／中澤 希公／中島 彩／中津 ひかる
長久 祐太朗／羽賀 優希／原田 薫子／林 明寿香／山岸 ななみ／山田 清太郎／山田 璃々子